

アメリカ合衆国におけるプエルトリコ系移民¹⁾社会の 歴史的推移とアイデンティティの変容

志 柿 禎 子

The History of Puerto Rican Community in the United States and Identity

SHIGAKI Yoshiko

In this paper I would like to discuss the identity of Puerto Rican People in the United States. Since 1898 Puerto Rico has been a US territory and since 1917 Puerto Ricans have had US citizenship. This fact has caused many Puerto Ricans to emigrate to the mainland. Now Puerto Rican emigrants' population on the mainland is on a level with the homeland, Puerto Rico.

With the growth of Puerto Rican emigrants to the US, the image of being Puerto Rican has been changing. Now, not all Puerto Ricans speak Spanish and love the Puerto Rican dishes. We can say that Puerto Rican identity has been changing as society has changed.

1999年、アメリカ合衆国(以下アメリカと略)のヒスパニック人口は約3,200万人に達し、人口全体に占めるヒスパニックの割合は11.7%に増加した。アメリカ人の9人に1人がヒスパニックということになる。²⁾ さらに、今後もヒスパニックの人口は増加を続け、2050年には全人口の24.5%、約四分の一を占めると予測されている。³⁾ このようなヒスパニック人口の急激な増加は、アメリカの言語政策や福祉政策上に多くの課題を提起し、Latinizationとも言われる新しい文化の波を起こし、社会全体を変容させる勢いを見せている。

しかし、一口にヒスパニックと言っても、その様相は単一ではなく、出身国が異なれば、その文化や背景となる歴史も大きく異なる。さらに、歴史的背景を同一にしても、その人間を取り巻く環境や生活条件の相違によりアイデンティティーの中味も様々ではない。メキシコ系とキューバ系ヒスパニックの文化は異なるし、同じメキシコ系の間でも、アメリカ生まれの人間とそうでない人間の持つアイデンティティーの内実には大きな幅がある。

しかしながら、このような多様性を持つヒスパニック集団のなかでも、プエルトリコ系移民は他のヒスパニックとは性質の異なる特色を持つ。それは、彼らのホームランド(homeland)であるプエルトリコが、アメリカ領土であり、アメリカ市民権を賦与されているという点である。この事実がプエルトリコ人のアメリカ本土(mainland)への移住を促し、アメリカにプエルトリカンという一大エスニック集団を形成させてきたのだが、同時に、この状況がプエルトリコ人とは何者であるのか、というナショナル・アイデンティティの問題を複雑にしてきた。アメリカ領土にありながら、独自の文化と言語を維持してきたプエルトリコ人にとって、プエルトリコ人であるということは何を意味するのであろうか。

本稿では、このようなプエルトリコ系移民社会の歴史的推移とアイデンティティーの変容を検証し、アメリカ本土におけるプエルトリコ人社会の全体像を明らかにする。

プエルトリコ社会と移民社会

2000年10月に開催されたプエルトリコ研究学会第4回国際会議（4th International Congress of the Puerto Rican Studies Association, ¡Bregando!: Negotiating Borders and Boundaries: Puerto Ricans in the Emerging Global Community of the 21st Century, October 26-28, 2000, University of Massachusetts, Amherst, USA）では、エドナ・アコスタ・ベレン（Edna Acosta-Belen）氏らの研究グループが、「エル・キント・ピソ（五階）-- El quinto piso: Constructing the History of the Puerto Rican Diaspora」というタイトルのもとに、プエルトリコ系移民集団に関する研究成果を発表し、アメリカ本土に住むプエルトリコ人社会がプエルトリコ社会の重要な一部となっている事実を強調した。

「エル・キント・ピソ（五階）」という言葉は、プエルトリコ社会が四層の文化から成りたつ国（país）であることを著したホセ・ルイス・ゴンサーレス（José Luis González）の著書『四階建ての国』に由来する。ホセ・ルイス・ゴンサーレスは、この著書で、プエルトリコに最初に形成された文化はアフロ・アンティルの民衆文化であり、それがプエルトリコ社会の一階部分を形成し、その上にスペイン文化を受け継ぐクリオージョ文化が持ち込まれ、そして、アメリカの侵略により三階部分の文化が形作られ、その後、近代化という四階部分の文化が形成された、とするプエルトリコ社会論を展開した。⁴⁾ エドナ・アコスタ・ベレン氏らの指摘は、このプエルトリコ社会論を引き合いに出し、アメリカのプエルトリコ系移民社会をプエルトリコ社会の五階部分として表現することによって、プエルトリコ社会における移民社会の重要性を強調したものであった。

確かに、言語も文化もアメリカとは異なるプエルトリコに住んでいると、たとえアメリカ領土に属するとは言え、アメリカは他の地域であるという意識を拭い去ることはできない。アメリカ帰りの英語を流暢に話す子供たちはプエルトリコでも帰国子女的扱いを受ける。プエルトリコの空港で、アメリカへ渡る家族に、他の家族たちが、遠い外国へ行くかのような別れを告げる場面に会ったりもする。確かに、島に住む者にとって、アメリカは海を隔てた別の世界である。従って、プエルトリコ社会を論じる際に、歴史、政治、文

学などの各分野において、島という地域を中心に論を展開する傾向が存在する。例えば、プエルトリコ文学を語る際に、英語で活動するアメリカ在住のプエルトリコ人作家が含まれにくい、といったことである。その意味で、プエルトリコ系移民社会をプエルトリコ社会の構成要素として強調することは、強調し過ぎてもし過ぎることはないであろう。

1999年のアメリカ国勢調査局（U.S. Census Bureau）の報告によれば、アメリカ本土に住むプエルトリコ人の人口は304万人⁵⁾となっている。プエルトリコの島の人口が389万人⁶⁾であるから、アメリカ本土に居住するプエルトリコ人は、島の人口に匹敵するほどに膨れ上がっている。島の間人はアメリカに住む家族や親戚がいて、自身も人生の一時期をアメリカで過ごすことがあるのである。それほど、プエルトリコにとってアメリカは身近な地域である。

実際、プエルトリコ人たちはアメリカとプエルトリコを自由に行き来しており、交通手段や通信手段の発達により、両地域は以前にも増して距離が縮まっている。島で教育を終え、仕事を求めてアメリカへ渡る者もいれば、島の経済が悪化したときに一時期な仕事を求めて渡る例もある。アメリカに渡って肌が合わず島に戻る者や、逆にアメリカに居を定め島は夏期休暇とクリスマスを過ごすためのところである者など、人によって両地域への関わりの度合いは様々である。また、以前は、渡航の手段は船であったが、現在は両地域を頻繁に行き来する飛行機でプエルトリコ人たちはそれこそ頻繁に行き来する。その様子がどちらかというと空の旅というより、乗り合いバスのようなことから、プエルトリコ人作家の ルイス・ラファエル・サンチェス（Luis Rafael Sanchez）は「航空バス（guagua aérea）」という表現を用いた作品を発表し話題になった。雑多なプエルトリコ人たちが、アメリカとプエルトリコの間を希望を探し求めて行き来するというのである。

こうして、島とアメリカのプエルトリコ人コミュニティの間には緊密な関係が成り立ち、ともに影響し合い関連し合いながら社会が成立している。

アメリカ本土におけるプエルトリコ人人口

ここで、アメリカ本土におけるプエルトリコ人人口の分布を概観してみよう。

プエルトリコ人は主に東海岸部の都市に居住してい

る。また、一般にヒスパニックは非ヒスパニック白人に比べ首都圏都心部居住者が多いが、プエルトリコ人はその中でも特に都心部に居住者が集中している。

プエルトリコ人の人口が最も多いのは、ニューヨークであり、米国在住プエルトリコ人全体の3割を占めている。一方、居住地区住民に対する割合が最も高いのはコネチカット州のハートフォードである。ハートフォードにプエルトリコ人の一大コミュニティが出来

上がった理由としては、一般に、プエルトリコ政府の移民政策に促され、ニューイングランド地区の季節農業労働者として働きに出たプエルトリコ人たちが農閑期の仕事を求めてハートフォードに住み着き始め、そこへニューヨークやシカゴの工場で働くプエルトリコ人たちが流れ込んだ、と言われている。

以下にプエルトリコ人人口分布に関する統計資料を示す。

(表1) 首都圏都心部に住む人口割合 (%)

	全 体	メキシコ系 住 民	プエルトリコ 系 住 民	キューバ系 住 民	中南米系 住 民	他 の ヒスパニック	非 ヒスパニック
首都圏都心部	29.8	47.3	61.5	25.2	44.4	53.3	27.5
首都圏郊外	51.0	42.3	34.6	73.3	53.5	37.0	51.9
首都圏以外	19.2	10.0	3.9	1.5	2.1	9.7	20.7
合 計	100	100	100	100	100	100	100

参考: Table 16.2 Population by Metropolitan- Nonmetropolitan Residence, Sex, Hispanic Origin and Race: March 1999, U.S. Census Bureau, Hispanic Population of the United States Current Population Survey - March 1999, <http://www.census.gov/population/socdemo/hispanic/cps99/tab16-2..>, 00/12/06より作成。

(表2) プエルトリコ人が多く住む主な米国の都市(上位10都市)

	プエルトリコ人口 (1990年)	米国在住プエルトリコ人 人口に占める割合
New York City, NY	896,763	32.87 %
Chicago, IL	119,866	4.39 %
Philadelphia, PA	67,857	2.49 %
Newark, NJ	41,545	1.52 %
Hartford, CT	38,176	1.40 %
Jersey City, NJ	30,950	1.13 %
Bridgeport, CT	30,250	1.11 %
Paterson, NJ	27,580	1.01 %
Boston, MA	25,767	0.94 %
Springfield, MA	23,729	0.87 %

Tabla 2 Concentración Poblacional Puertorriqueña en Ciudad de Estados Unidos, Acosta-Belén, Edna, et al., "Adiós, Borinquen querida": La diáspora puertorriqueña, su historia y sus aportaciones, Center for Latino, Latin American, and Caribbean Studies University at Albany State University of New York, Municipio de San Juan Estado Libre Asociado de Puerto Rico, San Juan 2000 Ciudad de Futuro, USA, 2000, p.4より作成。

(表3) 居住地区住民に占めるプエルトリコ人割合の高い都市(上位15都市)

	プエルトリコ人人口の割合
Hartford, Connecticut	27.31%
Camden, New Jersey	26.27%
Bridgeport, Connecticut	21.35%
Lawrence, Massachusetts	20.88%
Passaic, New Jersey	20.00%
Paterson, New Jersey	19.58%
Lancaster, Pennsylvania	18.55%
Springfield, Massachusetts	15.12%
Newark, New Jersey	15.10%
Reading, Pennsylvania	14.82%
New Britain, Connecticut	13.68%
Jersey City, New Jersey	13.54%
Lorain, Ohio	13.17%
New York City, New York	12.25%

Tabla 3 Población de las Ciudades de Mayor Concentración Poblacional Puertorriqueña, Acosta-Belén, Edna, et al., "Adiós, Borinquen querida": La diáspora puertorriqueña, su historia y sus aportaciones, p.5より作成.

プエルトリコ社会とディアスポラ

歴史的に、プエルトリコ社会にとって、ディアスポラ(離散)という現象は特殊なものではない。スペイン植民地時代から、他地域へ移り住む、という光景は一般に見受けられた。クリオージョは、師弟をスペインや他のヨーロッパ地域へ留学させ、職人は条件の良い仕事を求めて他のカリブ地域へ移動し、知識層に属する者のなかには、政治的迫害を受けて他の地域へ逃れる、といったことが度々生じていた。移り住むという現象は他のカリブ海地域同様、プエルトリコ社会を構成する重要な要素である。

同時に、この現象は社会経済的条件や政治的条件によって規定されてきたことは言うまでもない。この意味で、20世紀以降急増したアメリカへの移住という現象は、当然のことながら、プエルトリコとアメリカとの政治、経済的関係が大きく作用してきた。

プエルトリコは1898年の米西戦争終結以降はアメリカの領土となり、1917年にアメリカ市民権を賦与された。1952年以降はアメリカの自由連合州となり、現在に至っている。アメリカへの移民は今世紀に入り、市民権を賦与され、往来が自由になって急激に増加した。プエルトリコ人の移民が頂点に達するのは1950年代で

この時期は「グラン・ミグレーション (Gran Migración)」(移民時代)と呼ばれている。そして、1990年代のプエルトリコ人移民の増加は、増加率の数値こそ高くないものの、移住者数の多さから、グラン・ミグレーションに匹敵する移民の時期だと言われている。

以下に、アメリカ本土への移民人口の推移を示す。

(表4) アメリカ合衆国におけるプエルトリコ人人口の推移

年	人 口	増 加 率
1910	1,513	---
1920	11,811	680.6%
1930	52,774	346.8%
1940	69,967	32.6%
1950	301,375	330.7%
1960	887,662	194.5%
1970	1,429,396	61.0%
1980	1,983,000	38.7%
1990	2,330,000	17.5%
1999	3,152,000	35.3%

Acosta-Belén, Edna, et al., "Adiós, Borinquen querida": La diáspora puertorriqueña, su historia y sus aportaciones, P.3より作成.

アメリカ本土におけるプエルトリコ人の台頭

プエルトリコ系移民人口の増加に伴い、アメリカ社会の様々な分野でプエルトリコ人の姿を目にするようになった。以前はボクシングや野球などのスポーツ界で活躍するプエルトリコ人や、俳優ラウル・ジュリア (Raul Julia) などの演劇界の人物が目立っていた。最近では、ラテン音楽の流行に伴いリッキー・マーティン (Ricky Martin) やジェニファー・ロペス (Jennifer Lopez) といった歌手の活躍が目立ち、日本のメディアにも登場するようになった。メディアに現れてくるこのようなプエルトリコ人たちの存在は、とりもなおさずアメリカ社会のなかでプエルトリコ人たちが確実に足場を築きあげてきていることの現れでもある。彼らはどのような経緯でアメリカ社会のなかで自分たちの地位を築き上げてきたのだろうか。

19世紀、プエルトリコの移民のなかでは、政治的理由による移民が最も多かった。しかし、アメリカ主権下に移管して以降は、経済的理由による移民が増加した。当局側が、貧困と高失業率の解決策として移民政策を採用したためである。その最初のケースは、砂糖プランテーションの労働者としてハワイへ送られた移民たちである。

その後1917年にアメリカ市民権がプエルトリコに賦与されると、アメリカ本土への移民が大幅に増加した。そのなかでも、ニューヨークに移住した最初のプエルトリコ人たちは、マンハッタンのローアー・イースト・サイドにあるスペイン系のタバコ工場が立ち並ぶ地域に移住した。そして、1920年代の終わり頃にはイースト・ハーレムに定住するようになり、この地域がスペイン語で「地区、街」を意味するエル・バリオ (El Barrio、スパニッシュ・ハーレムの地域) と呼ばれるようになった。特にこの時代、アメリカがヨーロッパ系以外の移民を厳しく制限したことが影響し、需要が伸びていた低賃金労働力の担い手として、移民制限を受けないプエルトリコ人が利用された。こうして、多くのプエルトリコ人がこの地区に移住するようになった。

このような経緯を経て、20世紀最初の30年の間に、プエルトリコ人たちはニューヨークを始めとして、アメリカ各地に移住するようになった。1940年代50年代になるとニューヨークの繊維産業などの製造業、サービス業や、アメリカ北東部の農業はプエルトリコ人移

民の労働力無しでは成り立たないほどになっていた。そして、移民の増加に伴い、多様なコミュニティ活動が移民社会のなかに徐々に芽生えていった。労働運動が形成され、スペイン語による雑誌や新聞が発行された。また、スペイン語による芸術活動が展開された。特に、1917-1940年はニューヨークのプエルトリコ音楽の黄金の時期を迎え、多くの音楽家がこの都市に集まった。

1948年にはプエルトリコ政府の労働局が、ニューヨークにプエルトリコ事務所 (La Oficina de Puerto Rico en Nueva York) を設立し、プエルトリコ系移民のアメリカ社会への適応を支援するサービスを開始した。以後、アメリカ各地にプエルトリコ事務所が設立されていった。この事務所は1989年にはプエルトリコ人コミュニティ局 (Department of Puerto Rican Community Affairs) と名称を変え、90年代初頭まで活発に活動が続けた。このディレクターのなかから、プエルトリコ人女性として初めてアメリカ下院議員となったニディア・ベラスケス (Nydia Velazquez) などの人物が輩出された。また、1959年に始まったプエルトリコ人のパレードはニューヨークのエスニック集団のパレードのなかで、もっとも大きなものとして知られるようになった。

これらのプエルトリコ系移民社会の特徴としては「旅人の移民」と形容されるように、島との強い結びつきを挙げることができる。頻繁に行き来する「航空バス」のおかげで、プエルトリコ人たちは島の人間たちと強く結びついており、アメリカにあっても他のカリブ地域出身の移民たち同様、独自の習慣と文化を維持し続けるのである。そして、パレードはそういった彼らのアイデンティティの確認と示威を行う場となっている。

ところで、1960年代、70年代のアメリカは、既存の体制に反対する運動が社会を揺るがした時期である。この時期、プエルトリコ人たちのコミュニティにおいても社会運動が活発化し、市当局に無料の食事サービスや保健サービスなどの政策を実施させている。そして、これらマイノリティーの権利主張の社会運動は学問の分野にも影響を与え、ニューヨーク市立大学、ニューヨーク州立大学などに、プエルトリコ研究のカリキュラムが整備されていった。1973年にはニューヨーク市立大学にプエルトリコ研究センターが創設され、プエルトリコやプエルトリコ移民社会の貴重な資料が

収集された。現在でもプエルトリコ研究の上で重要な役割を担っている。そして、1992年には、アメリカに居住するプエルトリコ人研究者を中心に、プエルトリコ研究学会（Puerto Rican Studies Association, PRSA）が創設され、プエルトリコ系移民社会の研究が新たな展開を遂げた。これらの研究の進展は、これまで、アメリカ人の目を通して研究されたプエルトリコ研究が研究の基本とされていた傾向を大幅に変更した。プエルトリコ人は貧しい民で、その文化にも独自性がない、といった研究結果がアメリカ人の手によって出されていた。貧しさのなかの文化をプエルトリコの文化として著わしたオスカー・ルイス（Oscar Lewis）の『ラ・ビーダ（La vida）』などは、日本でもプエルトリコ研究の基本的文献とされているが、結局はアメリカ人研究者の限定された社会の一方的な紹介でしかないとプエルトリコ人研究者は批判する⁷⁾。指摘されてみれば、当然なことであるが、1970年代以降、プエルトリコ人研究者たちが登場してきて初めて、このような批判が提起されるようになってきたのである。

これは、60年代以降のマイノリティーの社会進出と連動したプエルトリコ人研究者たちの努力の賜物であり、プエルトリコ人たちが学問の分野においても台頭してきたことの結果と言える。プエルトリコの研究者たちは、プエルトリコの歴史や文化に対するアメリカ流の解釈から「脱植民地化」することを目指して、新たなプエルトリコ研究の地平を確立したと言えよう。

プエルトリコの政治的地位と

ナショナル・アイデンティティ

1998年12月に実施されたプエルトリコの政治的地位を問うプエルトリコ国民投票（plebiscite, referendum）（結果は現行の自由連合州体制〈commonwealth associated with the US〉支持が50.3%、州制移行支持が46.5%、独立支持が2.5%、⁸⁾を前に、プエルトリコを代表する作家ロサリオ・フェレ（Rosario Ferre）がアイデンティティに関する見解を新聞紙上に披露して、プエルトリコの言論界に波紋を起こした。ヒスパニックが増加し、アメリカがバイリンガル・マルチカルチャリズムの国へと変貌している現在、プエルトリコが独立する必要はない、とロサリオは独立主義を批判したのである。ロサリオが、プエルトリコを代表する作家であることに加え、彼女自身がかつては独立

主義者であったことも手伝い、その発言は、プエルトリコの言論界の物議をかもした。ロサリオはニューヨーク・タイムズ紙上で次のように述べている。

...Feeling on the island is divided almost equally between statehood and commonwealth, with independence favored by less than 4 percent of the voters.

But if Puerto Ricans living on the mainland are allowed to participate in the proposed referendum, as some have recommended, they could sway the vote, because many of them favor independence. This could mean that the next generation of Puerto Ricans would be deprived of the right to American citizenship... As a Puerto Rican writer, I constantly face the problem of identity. When I travel to the States I feel as Latina as Chita Rivera. But in Latin America, I feel more American than John Wayne. To be Puerto Rican is to be a hybrid. Our two halves are inseparable; we cannot give up either without feeling maimed... Puerto Ricans have been Americans for almost a hundred years. At least 6,000 Puerto Ricans have died fighting for the United States, and many thousands more served in Korea and Vietnam. My son led a platoon of Puerto Rican soldiers in the Persian Gulf war. At the time, no one asked if he wanted to be an American. He simply did his duty... Puerto Ricans have already joined the first world, deeply involved with American interests... The majority of Puerto Ricans prize their American citizenship... On the other hand, we also cherish our language and culture. Thus, Puerto Rico's situation has historically been a paradox... Latinos are the fastest growing minority in the United States... Bilingualism and multiculturalism are vital aspects of American society... The reality is that we can no longer "be disappeared."... We have become the other. As a Puerto Rican and an American, I believe our future as a community is inseparable from our culture and language, but I'm also passionately committed to the modern world. That's why I'm going to support statehood in the

next plebiscite.⁹⁾

プエルトリコでは、植民地問題に関して現行の自由連合州体制か、独立か州制移行かを巡る政治対立が常に政治の焦点となってきた。この問題は当然、アメリカに住むプエルトリコ人社会のアイデンティティ問題の焦点とも重なった。ロサリオは、マイノリティの発言力の増大やヒスパニック人口の増大などによって生じているアメリカ社会の変容を理由に、プエルトリコ人のナショナル・アイデンティティの有り様と政治路線の見直しを提起したと言える。

ここで、特に注目すべきことは、ヒスパニックの増加に伴いアメリカ社会が変化しつつあるのと同時に、独自の文化を維持してきたプエルトリコ系移民社会のなかにもナショナル・アイデンティティに関する認識を巡って変化が生じてきていることである。アメリカに在住するプエルトリコ人作家エスメラルダ・サンティアゴ (Esmeralda Santiago) は、島のプエルトリコ人から、「(アメリカの習慣に毒されている) おまえはプエルトリコ人じゃない」と言われたことにに対し、次のように考えるようにしたと答えている。

...The ironic thing for me is that in Puerto Rico I was considered American. In the United States I was considered Puerto Rican. It was really confusing... I've thought about this and I can deal with it... I'm very clear about it. I came to the point where I said: "The people who think I'm not Puerto Rican, it's their problem, not mine, because I feel Puerto Rican and if they can't accept it, they're going to have to deal with it, to deal with Puerto Rican that I am. If they don't like that Puerto Rican, they can go find somebody else to talk to because I'm not going to change."¹⁰⁾

エスメラルダは、島の人間からプエルトリコ人ではない、と否定されても、自分がプエルトリコ人として認識している以上はプエルトリコ人である、と断言している。それは、これまでのプエルトリコ人としてのナショナル・アイデンティティの有り様に変更を迫るものでもある。

エスメラルダ自身は現在、アメリカで映像プロダクションの仕事をしてながら作家活動を行っている。アメ

リカで生活し、英語を得意とし、アメリカナイズされていても、プエルトリコ人である彼女はプエルトリコ人としての誇りを捨てない。そして、自分が島に戻った時に味わった屈辱に対して卑屈になるのではなく、自分を認めない周りの人間のほうこそ認識を変えなければならない、と主張する。それは、アメリカ人たちからプエルトリコ人の存在を拒否されたとき、自分たちに落ち度があるのではなく、自分たちを拒否する人間たちこそ変わらなければならないと、その認識の変更を迫ったマイノリティの闘いと通じるものがある。そして、エスメラルダの主張は、「スペイン語を話し、アメリカ社会で差別されるプエルトリコ人」というステレオタイプではなくくりきれないほどに、プエルトリコ人社会が多様化してきていることのひとつの現れでもある。そして、アメリカに住むプエルトリコ人の58%が、すでにプエルトリコ生まれでなくなっているときに¹¹⁾、かつアメリカにおける人種差別の様相が一変してきている時代に、プエルトリコ人のアイデンティティも各人各様に変化していくのも当然のことと言えよう。プエルトリコ系移民社会は独自の文化と言葉を維持しながらも、同時に、その社会が拡大するにつれ、多様性も増していつているのである。

結論

プエルトリコが、アメリカの領土であり、アメリカ市民権を持っているという事実が、プエルトリコ人のアメリカ本土への移住を促してきた。同時にこの状況が、プエルトリコ人のナショナル・アイデンティティの問題を複雑にしてきた。

しかし、急激に拡大したプエルトリコ系移民社会は、プエルトリコ社会のなかに多様性をもたらし、これまで存在したプエルトリコ人としてのアイデンティティの内容に変更を迫り、さらに、プエルトリコの政治的地位をめぐる論争にも影響を与え始めている。このようなナショナル・アイデンティティの変容は、プエルトリコ社会の独自性を薄めるものであろうか。

プエルトリコ系移民社会を指して「旅人の移民」と言う。別の言葉で「回転ドアの移民たち」とも呼ばれている。プエルトリコ人たちが、はっきりなしにアメリカと島を出入りしている様子を指してこう表現している。プエルトリコ人たちはアメリカとプエルトリコの間を頻繁に行き来するため、両地域の結びつきは強く、互いに関連し合いながら成立している。つまり、

相互関連して成立していること自体がプエルトリコ社会の特徴のひとつとなっている。従って、プエルトリコ社会のナショナル・アイデンティティーの変容自体もプエルトリコ社会の特徴と考えたほうが妥当であろう。そして、プエルトリコ社会の変化に応じ、アイデンティティーの内実も変化していくのだが、そこからプエルトリコ人としてのエキスが無くなることはない。島ではスペイン語は主言語であり、アメリカでは英語を操るプエルトリコ人がいるとしても、両地域は常に関連しつつ成立し、かつどちらもプエルトリコ社会を形成している以上、そこからプエルトリコ人であるというアイデンティティーが消え去ることはない。スペイン語を話し、プラタノ料理（野菜バナナ料理）や豆料理が大好きなプエルトリコ人だけがプエルトリコ人だというわけではなくなってきたのである。

英語を流暢に話し、世界市場でエンターテインメントを繰り広げているリッキー・マーティンが「僕はプエルトリコ出身だよ」と英語で言っている時、そこには、自分のアイデンティティを決して手放さないプエルトリコ人の姿が浮かび上がってこよう。

註

- 1) migrant, 国内移住者のこと。例えば英語では国を越える移住者に対して immigrant, emigrant を使用し、国を越えない移住者には migrant を使用するが、日本語にはこれらに対応する語がないので、ここでは、移民、移住という語を使用する。
- 2) U.S. Census Bureau, Hispanic Population of the United States Current Population Survey-March 1999, <http://www.census.gov/population/www/socdemo/hispanic/cps99/tab01-2, 00/12/06>.
- 3) U.S. Census Bureau Current Population Reports P25-1130 Population Projections of the United States by Age, Sex, Race, and Hispanic Origin: 1995 to 2050 Issued February 1996, <http://www.census.gov/prod/1/pop/p25-1130/Last Revised: Tuesday, 13-Apr-99 15:50:12>.
- 4) José Luis González, *El país de cuatro pisos y otros ensayos*, ediciones huracán, Puerto Rico, Primera edición: 1980, Séptima edición revisada y aumentada: 1989. 志柿光浩「ホセ・ルイス・ゴンサーレス著『四階建ての国』」『アジア経済』第25巻第12号、1984年12月15日、pp.108-111参照。
- 5) U.S. Census Bureau, Hispanic Population of the United States Current Population Survey - March

- 1999, <http://www.census.gov/population/www/socdemo/hispanic/cps99/tab01-2, 00/12/06>.
- 6) U.S. Census Bureau, <http://www.census.gov/population/www/estimates/puerto-rico.html>.
- 7) Edna Acosta- Belén氏らはそれらの偏った見方に異議を唱えている。
Acosta-Belén, Edna, et al., "Adiós, Borinquen querida": La diáspora puertorriqueña, su historia y sus aportaciones, Center for Latino, Latin American, and Caribbean Studies University at Albany State University of New York, Municipio de San Juan Estado Libre Asociado de Puerto Rico, San Juan 2000 Ciudad de Futuro, USA, 2000 pp.11-12.
- 8) Resumen del Plebiscito de Status de 1998, <http://ElectionsPuertoRico.org/1998/resumen.html, 00/12/21>.
- 9) The New York Times on the web, Archives, March 19, 1998, Thursday, Editorial Desk, Puerto Rico, U.S.A., By Rosario Ferré.
- 10) Carmen Dolores Hernández, *Puerto Rican Voices in English: interviews with writers*, Westport, Praeger, U.S.A., 1997, p.164-165、志柿光浩「米国本土在住プエルトリコ人作家エスメラルダ・サンティアゴが提起していること」、研究代表者藤原五雄『他文化社会におけるマイノリティ集団の言語的アイデンティティと現代文学（課題番号09610547）』平成9－平成10年度科学研究費補助金研究成果報告書、平成11年3月 pp. 1-8 参照。
- 11) Acosta-Belén, Edna, et al., "Adiós, Borinquen querida": La diáspora puertorriqueña, su historia y sus aportaciones, p.6.

参考文献

- Acosta-Belén, Edna, et al., "Adiós, Borinquen querida": La diáspora puertorriqueña, su historia y sus aportaciones, Center for Latino, Latin American, and Caribbean Studies University at Albany State University of New York, Municipio de San Juan Estado Libre Asociado de Puerto Rico, San Juan 2000 Ciudad de Futuro, USA, 2000.
- Cruz, José E., *Identity and Power: Puerto Rican Politics and the Challenge of Ethnicity*, Temple University Press, USA, 1998.
- Colón, Jesus, *Puerto Rican in New York and Other Sketches*, International Publishers, USA, 1991 (1961 by Masses/Mainstream, 1982 by International Publishers).
- De Jesús, Joy L. ed., *Growing Up Puerto Rican*,

- Avon Books, Inc., USA, 1997.
- González, José Luis, *El país de cuatro pisos y otros ensayos*, ediciones huracán, Puerto Rico, Primera edición: 1980, Séptima edición revisada y aumentada: 1989.
 - Hernández, Carmen Dolores, *Puerto Rican Voices in English: interviews with writers*, Westport, Praeger, U.S.A., 1997.
 - History Task Force Centro de Estudios Puertorriqueños, *Labor Migration Under Capitalism: The Puerto Rican Experience*, Monthly Review Press, New York, U.S.A., 1979.
 - Rodríguez, Clara E., *Changing Race: Latinos, the Census, and the History of Ethnicity in the United States*, New York Univ. Press, New York, USA, 2000.
 - Rodríguez, Clara E., *Puerto Ricans born in the U.S.A.*, Westview Press, USA, 1991.
 - Rivera-Batiz, Francisco, Santiago, Carlos E., *Island Paradox: Puerto Rico in the 1990s*, Russell Sage Foundation, New York, USA, 1996.
 - Rodríguez, Clara E., Sánchez Korrol, Virginia E. eds., *Historical Perspectives on Puerto Ricans Survival in the United States*, Markus Wiener Publishers, USA, 1996 (1980 by the Puerto Rican Migration Research Consortium, Inc., 1984 by Waterfront Press).
 - Sánchez Korrol, Virginia E., *From Colonia to Community: The History of Puerto Ricans in New York City*, Univ. of California Press, USA, 1994 (1983 Greenwood Publishing Group, Inc.).
 - Torres, Andrés and Velázquez, José, *The Puerto Rican Movement: Voices from the Diaspora*, Temple Univ. Press, Philadelphia, USA, 1998.
 - Weyr, Thomas, *Hispanic U.S.A. Breaking the Melting Pot*, Happer & Row, New York, USA, 1988.
 - トーマス・ワイヤー『米国社会を変えるヒスパニック・スペイン語を話すアメリカ人たち』日本経済新聞社、1993年。
 - 志柿光浩「米国本土在住プエルトリコ人作家エスメラルダ・サンティアゴが提起していること」、研究代表者藤原五雄『他文化社会におけるマイノリティ集団の言語的アイデンティティと現代文学（課題番号09610547）』平成9－平成10年度科学研究費補助金研究成果報告書、平成11年3月、pp.1-8。